

海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	養田 洋介 養田
所属機関	九州大学 病態制御内科学
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	Digestive Disease Week (DDW) 2018
渡航期間	自 平成 30年 6月 01日 至 平成 30年 6月 26日
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	粘膜切開生検の有用性評価
<p>研究成果 (要約 : 800 字)</p> <p>「 Endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration v.s. a mucosal incision-assisted biopsy for gastric submucosal tumors: A randomized comparative study」</p> <p>胃粘膜下腫瘍の診断に対して EUS-FNA がゴールドスタンダードとされていたが、EUS-FNA は専用の機器が必要となる。近年、通常の施設でも施行可能な粘膜切開生検法の有用性は数例の報告があるものの EUS-FNA との比較検討が十分にされておらず、どちらの診断方法が有用なのか不明であった。本研究の目的は、胃粘膜下腫瘍に対して多施設でランダム化非盲検前向き比較試験を行い EUS-FNA と粘膜切開生検いずれが有用か明らかにすることであった。本研究により粘膜切開生検は EUS-FNA と比較し安全かつ診断精度の高い検査方法であることが明らかになった。本研究から粘膜切開生検は胃粘膜下腫瘍に対して有用な診断法であり、EUS-FNA の代替的検査法になる可能性があるものと判明した。ポスターセッション発表を行った。大きく 3 種の質問があり、その詳細な処置方法のやり方、合併症を起こさない工夫、生検鉗子の大きさの質問があった。主に EUS-FNA の専用機器を持たないアジアの施設からの質問が多かった。また類似の検討が海外からも報告されており、結果も類似していた。今回の結果はより信頼できるものと考えられた。さらに腓領域において EUS-FNA の診断率を上げる工夫としてフランチール針(Acquire®)、フオークチップ針(Shark Core®、本邦未承認)などの針の工夫がなされており、粘膜下腫瘍においても今後の研究課題と考えられる。今回自施設だけの研究結果だけでなく、他施設の診断率向上の工夫をみる事ができた。また本邦だけでなく、海外の研究者と交流、情報交換をすることができ非常に有用な海外発表であった。</p>	